

- 横浜市では地産地消を推進するとともに、**2027年には国際園芸博覧会が開催**されるが、市内の植木生産者は**多品目少量生産**が多く、**大口需要への対応が難しい**。
- 生産者が連携・協力し、市の緑化事業や博覧会において市内産植木の活用を促進できるよう**新樹種の選定や安定生産・出荷を支援**。
- その結果、**横浜産奨励樹種30品目を選定し、生産規格・品質基準15品目作成、苗木増殖施設も4箇所整備**され**生産が拡大中**。

具体的な成果

1 **横浜産奨励樹種の選定と規格・品質基準の作成**

- JA植木部生産部会で生産する**奨励樹種30品目を選定**
- 市の緑化事業等の活用されるよう推奨樹種の**生産規格と品質基準を15品目で作成**

2 **横浜産奨励樹種の生産拡大**

- 奨励樹種30品目は、3年度までに**全て作付け、増産開始**



（写真は、横浜産奨励樹種のサルスベリ‘ディアルージュ’）

3 **苗木生産体制の整備**

- 苗木生産施設が4年間で**4か所整備**



（写真は新設された密閉挿し施設）

4 **生産管理台帳の整備**

- JA植木部生産部会で生産量を把握するための生産管理**台帳の整備を開始**



（写真は県内初導入のヤボンノキ‘ハ劔枝垂れ’）

普及指導員の活動

令和元年度～3年度

- JA植木部生産部会に樹種選定委員会の**設置を働きかけ、技術的助言より県・市内で育成されたオリジナル性の高い横浜産奨励樹種の選定を支援**

令和元年度～令和6年度

- 横浜産奨励樹種それぞれの**品種特性に応じた生産技術の指導**

令和2年度

- 県内でも未生産であった県育成の枝垂れ性ヤボンノキなどの**見本園の設置と特性の説明等**

令和2年度～令和6年度

- 苗木の生産体制を整備するため、**挿し木や接ぎ木技術の講習会の開催、苗木生産施設整備への相談対応**

令和4年度～令和5年度

- 奨励樹種の**生産規格と品質基準作成の助言・指導**

普及指導員だからできたこと

- ・ 樹種選定委員会では、**生産者から信頼があり、中立的な立場で普及指導員が助言し、樹種の選定、取りまとめることができた。**

- ・ 未導入の品目であっても**専門技術を活用して、生産技術の助言・指導**ができた。

横浜市内産植木の安定生産・出荷に向けた支援

活動期間：令和元年度～（継続中）

1. 取組の背景

横浜市では、地域農業の振興を図るため、地産地消を推進するとともに、2027年には国際園芸博覧会が開催される。

博覧会の開催に向けて、植木生産の活性化が期待できるが、植木生産者は多品目少量生産が多く、大口需要への対応が難しい状況となっている。

植木生産者が連携・協力し、市の緑化事業や博覧会において市内産植木の活用を促進できるよう新樹種等の選定や安定生産・出荷を支援する。

2. 活動内容（詳細）

（1）横浜産奨励樹種の選定支援（令和元年度～3年度）

令和元年度に、市内の植木生産者が連携・協力した安定生産・出荷体制を確立するため、J A横浜植木部生産部会（会員27名）に検討組織の設置を働きかけ、生産部会役員会に樹種選定委員会が設置された。その後、令和3年度まで検討した結果、県及び市内生産者育成樹種を中心に横浜に由来のある樹種等を加え、「横浜らしさ」を表現できるオリジナル性の高い横浜産奨励樹種30品目が選定された。

普及指導員は、樹種選定委員会に対して中立的な立場で樹種ごとの肥培管理や仕立て方などを助言した。

（2）生産技術指導（令和元年度～継続中）

奨励樹種の中で最近育成された品目については、早期に出荷サイズにまで育てるため、普及指導員が品目に応じた施肥や仕立て方等を助言・指導している。

（3）見本園の設置（令和2年度）

奨励樹種のうち、県で育成したヤボンノキ‘八剣枝垂れ’は県内でも生産が始まったばかりで成木がほとんどなく、生育状況等を確認できるよう、令和2年度に生産者及びJ A植木セリ市会場に見本園を2か所に設置した。この見本園では生産を開始する生産者に対して樹種特性の説明等を行った（6回）。

（4）苗木生産体制の整備支援（令和2年度～継続中）

苗木の生産体制を整備するため、密閉挿し用施設や挿し木用ミストの導入を希望する生産者から施設整備の相談に個別対応した。また、増殖技術の習得を図るため、挿し木（緑枝及び休眠枝）や接ぎ木の講習会を開催（3回）している。

（5）生産規格と品質基準の作成支援（令和4年度～継続中）

市の緑化事業や博覧会での活用を促進するためには、造園業者等が利用し易いように生産物の規格（樹種に応じた樹高、太さ、株張りなど）や品質

基準が必要となるため、令和4年度から規格・基準の作成を支援し、令和4年度に15品目で作成できた。令和5年度は残り15品目が作成される予定である。

普及指導員は、生産部会に建設物価版を参考に、造園工事に携わる者の意見を聞きながら作成するように助言するとともに、具体的な規格・品質基準の作成を指導した。

3. 具体的な成果（詳細）

（1）横浜産奨励樹種の選定とその規格・品質基準の作成

J A横浜植木部生産部会において、横浜産奨励樹種30品目（令和元年度13品目、令和3年度17品目追加）が選定されるとともに、15品目の生産規格と品質基準が策定された。

（2）横浜産奨励樹種の生産拡大

J A横浜植木部生産部会において、令和3年度までに横浜奨励樹種30品目全てが作付けされ、増産が始まった。

（3）苗木生産施設の整備

横浜奨励樹種の増産を支える苗木の増殖施設（密閉挿し施設や挿し木用ミスト等）が4か所整備された。

（4）生産管理台帳の整備

生産規格と品質基準が作成された樹種から、その規格に応じた生産を管理するための台帳整備が始まった。これにより、J A横浜植木部生産部会として生産量を把握することできるようになる。

4. 農家等からの評価・コメント（横浜市A氏）

部会として生産技術の向上のための活動は行っていたが、大口需要の受注に繋がる生産拡大と把握等までの連携がなかなか出来ていなかった。今回の取組により、スタートラインに立てたかと思う。このような支援を普及指導機関から受けることができ有り難く思う。

5. 普及指導員のコメント（神奈川県農業技術センター横浜川崎地区事務所・副技幹・H）

横浜らしい推奨樹種が選定され、生産量、樹種の把握のために巡回検討会の開催や生産管理台帳の整備が始まるなど、植木生産部会の活動が活性化している。

6. 現状・今後の展開等

現在、今年度中に残りの規格・基準が作成できるよう支援している。また、生産管理台帳の整備についても支援し、市緑化事業等での奨励樹種の活用に繋げる。